

## 第21回産業衛生技術部会専門研修会

### 地元企業の労働衛生管理の実際(地元企業の衛生管理者活動報告)

## 三井化学(株) 岩国大竹工場における労働衛生管理評価の取組み

河野 亮 (三井化学株式会社 岩国大竹工場 健康管理室)

当社は化学製造業として、ポリエステル繊維の原料となるPTA(テレフタル酸)や塗料・接着剤等に使用されるMIBK(メチルイソブチルケトン)、自動車材料に用いるポリプロピレン、ウレタンなどを製造している。そのため、工場には日常的に多くの化学物質の取扱い作業や原料/触媒投入・製品充填などの重量物作業、モーターや押出し機周辺における騒音ばく露作業、熱中症リスクの高い暑熱作業など、様々な労働衛生リスクがある。

岩国大竹工場では作業者の健康障害防止及び化学物質等の管理のため、従来、チェックシート等を用いた現場巡視を実施してきた。しかし、頻繁に改正される労働衛生関連法令等において職場の労働衛生管理が網羅的かつ十分な対応ができていないと感じることがあったため、労働衛生管理状況を数値化できるツールとして「労働衛生管理評価」を開発した。

労働衛生管理評価は労働衛生管理の基本である3管理(作業環境管理、作業管理、健康管理)の管理状況を整備し、有効に活用することによって、労働衛生管理活動の推進を図ることを目的としている。当該労働衛生管理評価では労働衛生関連法令等において規制される労働衛生管理事項に対し、評価点をつけることができるようにし、それらを集計することで職場の労働衛生管理対応状況を「労働衛生管理対応率(%)」として算出できる仕組みとなっている。主な労働衛生リスク作業として化学物質、騒音、重量物、暑熱、事務所、VDT、分煙、放射線、レーザーの9項目の評価シートを作っており、職場毎の労働衛生リスク作業の整理や工場全体で取り組むべき課題抽出など、労働衛生課題解決のための施策展開につなげることができた。(施策の一例:作業環境測定と特殊健康診断の一元化、局所排気装置管理の適正化、受動喫煙防止対策の推進、化学物質管理(SDSの整備、保護具の選定、作業記録の作成など))。

また、これまで職場にとっては安全管理に比べると、あまり身近でない労働衛生管理であったが、毎年、労働衛生管理評価を実施してきたことで、職場管理者の労働衛生レベルの向上につながり、現場主体の労働衛生管理活動の推進を後押しすることができた。衛生管理者の立場では、職場の課題に対し、衛生工学的な知見に基づく専門的支援や毎年のフォローアップなど、専任衛生管理者としての役職を十分に発揮できるツールとなった。

当初、労働衛生管理評価は労働衛生管理状況の評価ツールとして推進してきたが、現在では多くの職場が高対応率を維持することができるようになったため、現在の労働衛生管理項目のブラッシュアップ(労働衛生管理項目の見直し、法令改正等の周知説明など)を図り、今後も現場力強化を意識した労働衛生管理活動を推進していきたい。

【利益相反:無】